PM活動の基盤構築①

（１）PMの所属（JSTへの着任）

- ✓ PMはJSTでの専任が原則。エフォート（全業務量に占めるPMとしての業務の割合）を厳しくチェック。
- ✓ JSTへの着任時期に差はあるものの、手続きはスムーズに進展。
- ✓ ImPACTの実施、PM決定を受け、大学においては、クロスアポイントメント制度（大学と他機関の双方の身分を有し、双方の業務を行う仕組み）の導入が進展。

○PMの着任予定時期

9月	10月	11月	12月	1月
合田PM 佐野PM 八木PM	佐橋PM 鈴木PM 田所PM 宮田PM 藤田PM 山川PM 山本PM	山海PM		伊藤PM

○PMの出身母体からJSTへの異動形態

企業出身PM		大学･国研出身PM	
出向	退職	クロスアポイントメント	退職
4	1	6	1

○エフォート

PMの形態				
形態	ImPACTの研究実施	PMエフォート	PM以外のエフォート	
専任	PM自ら実施しない	100%	–	佐野、鈴木、藤田、八木、山川、山本
兼任	PM自ら実施しない	90%超	【大学所属研究者】 10%以下（教員業務）	宮田
	PM自ら実施する		【大学・独法所属研究者】 10%以下（ImPACT研究業務）	
		80%超	【大学所属研究者】 20%以下 教員業務　10%以下 ImPACT研究業務　10%以下	伊藤、合田、佐橋、山海、田所

○クロスアポイントメント制度の導入

導入済み	導入予定
東大、阪大、 ※東北大、筑波大	名大

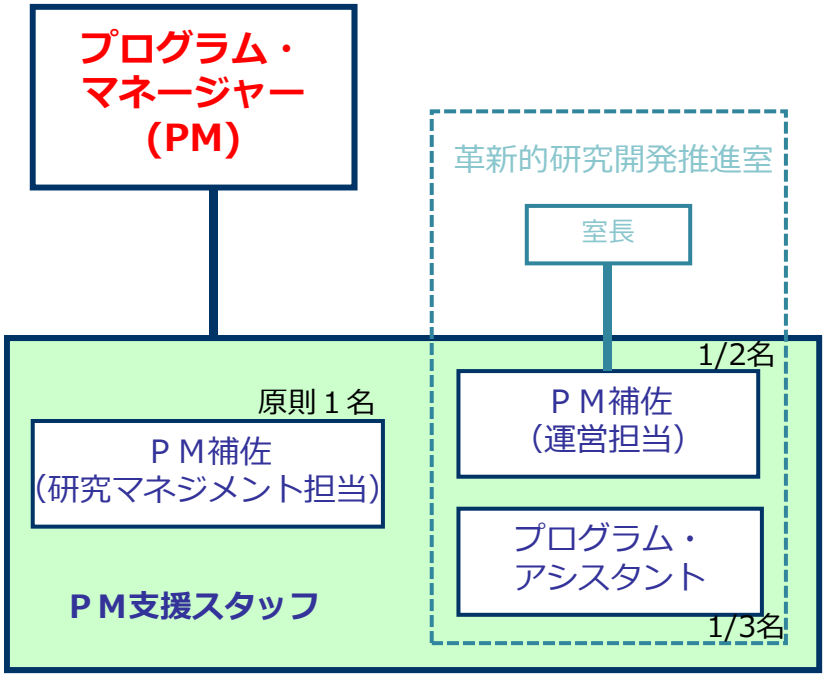
※東北大は「ジョイントアポイントメント制度」

PM活動の基盤構築②

（２）PMの支援体制

- ✓ PMをサポートする人的体制は、PMリクルートによるPM補佐（研究マネジメント担当）とJSTによるPM補佐（運営担当）
- ✓ PM補佐（研究マネジメント担当）は、PMが直接リクルートし、JSTに常駐
- ✓ JST支援体制は、約PM２人に対しPM補佐（運営担当）を1人、約PM３人に対しプログラム・アシスタント（秘書業務等を担当）１名を配置
- ✓ また、経理・契約等の事務は共通の支援人材を確保
- ✓ ただし、PMの個別事情に応じて、柔軟に体制構築

○PMの支援体制



○JSTのPM支援体制

革新的研究開発推進室（20名） ※H26年9月11日現在

室長	石正　茂
室長代理	小林　正

総括・推進グループ（研究開発プログラム推進支援担当）
　責任者　小西　隆　調査役
　PM補佐6名（運営担当）、他5名

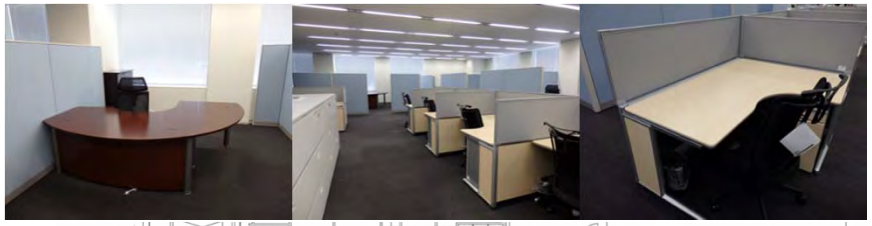
プログラム支援グループ（経理、契約、人事等担当）
　責任者　泉　直行　調査役
　他5名

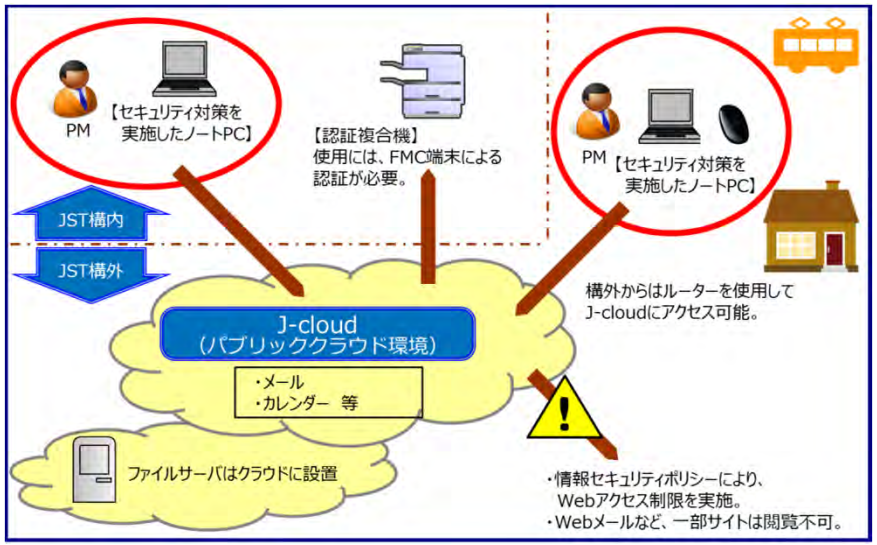
PM活動の基盤構築③

（３）PMの執務環境

場所 ：JST別館９階フロア全て（900m²）をPM用に用意。各PMの事情・要請に対応した環境整備を実施。（50名程度のワークショップ等の開催が可能。可動パーティション分割によって、委託研究機関の研究者等がフリーにディスカッションできる環境を用意）

OA ：円滑に業務を遂行するため、持ち運びが容易なノートPCを業務用PCとして使用し、パブリッククラウド環境に構築しているJSTのOA環境（J-Cloud）を使用して業務を行う。





広報・アウトリーチ活動

- ✓ HPを開設し、ワークショップ開催の案内、公募情報の提供、意見募集の実施に活用
- ✓ 今後、キックオフシンポジウム等のアウトリーチ活動を順次計画予定
- ✓ PMによるプログラムの作り込みの過程で、ワークショップ等の開催も増えつつある状況

○HP（7/30公開）

http://www8.cao.go.jp/cstp/sentan/about-kakushin.html
http://www.jst.go.jp/impact/index.html

○今後予定している アウトリーチ活動

- ・リーフレット作成
- ・キックオフシンポジウム開催
- ・PM研修

等

○公開ワークショップ等の日程（予定含む）

開催日	PM （場所）
8/20	宮田（JST別館ホール）
8/22	山本（JR神田万世橋ビル）
8/28	佐橋（JST別館ホール）
9/ 1	山川（TKP市ヶ谷CC ）
9/30	伊藤（TKP市ヶ谷CC ）
10/ 7	山川（ベルサール九段）

他、非公開の研究会を11回開催

○ワークショップの開催目的

新たな技術やニーズの探索・発掘
ユーザーとの直接的意見交換
プログラムの社会発信
など

○ワークショップの開催形態

	メリット	デメリット
公開	幅広い参加が可能	機密情報の取扱が困難
非公開	機密情報を含めた意見交換が可能	透明性への懸念